

令和4年度 園評価・関係者評価書

園名	加西市立賀茂幼稚園
----	-----------

1. 教育目標

「こころ豊かに たくましく育て子ども」 ◎明るく元気な子 ◎みんなと仲良くする子 ◎力いっぱいがんばる子

2. 本年度の重点目標

心豊かに自分らしさを発揮し 主体的に生活する子どもをめざして
～身近な自然や人とのふれあいを通し感動体験、協同経験を積み重ねながら～

3. 自己評価結果(達成状況)【 A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない 】

評価の観点	評価項目(取組内容)	取組(達成)の状況	評価	改善の方策
園 運 営	<ul style="list-style-type: none"> ○職員の資質向上 ・実戦的指導力の向上 ・計画性のある研修の実施 ○園務分掌の適切な機能と責任体制の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の指導方法については今年度は幼児・乳児に分かれ担任会議を主幹教諭を中心に担任支援担当者との会議も行いその内容を職員会議で下して全職員で共通理解を図り全体で全園児を見守っていく体制をとった。 ・外部講師の指導をいただきながら今年度は2回乳児と幼児についての研修会を園で行い資質向上に努めた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○職員の保育についての悩みや指導方法については次年度も主幹教諭による担任会議を中心に担任の意見を引き上げる形で進めていく。また、全職員で検討する問題については職員会議の場で検討し共通理解を図っていく。 ○園内の研修については次年度も引き続き同じ外部講師にご指導を受けながら指導力向上に努めていく。
教 育 課 程	<ul style="list-style-type: none"> ○興味や関心に基づいた直接的な体験が得られる生活の工夫 ○友達と十分にかかわって展開する生活の工夫 ○幼児の主体性を大切に指導 ○幼児一人一人の発達の特性を踏まえた指導方法の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・収束しないコロナ禍で感染拡大対策を考慮しつつ、子どもの姿を踏まえ一人一人の育ちを見据えた保育活動を行った。 ・3～5歳児においては異年齢でのかわりを中心に子どもの興味に沿った遊びを発展し外部講師の助言をもとに職員間で遊びを通じた子どもの学びや育ちについて話し合い、環境構成や指導方法を検討した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度の個々の保育の振り返りや、反省を通して課題や目標等を見つけ、次年度の指導計画等に活かしていく。 ○賀茂幼稚園の人数や特色を活かした保育、例えば、異年齢でのかわりや遊びを豊かにしていく環境など、この園でしかできない細やかな保育を探りながら進めていく。 ○地域の人の教育力を活かした保育内容を取り入れながら教育過程を考えていく。
子 育 て 支 援	<ul style="list-style-type: none"> ○「親と子の育ち合いの場」としての役割や機能の充実 ・未就園児や保護者への園庭開放 ・子育て相談、講座等の開催 ○一時預かり・延長保育の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度より未就園児や保護者への園庭開放「かもこくらぶ」を立上げ地域へ開放を行う。今のところ利用人数は少ないが定期的に利用していただく親子もあつた。 ・個別懇談会を3回開催した。園と家庭とが情報共有し合い子どもの育ちを一緒に考えていくことができた。 ・今年度は家庭教育講座を開催することができた。救急救命士の方に来ていただき5歳児も入って命についての講話を聞いた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度より始めた未就園児の園庭開放「かもこくらぶ」をぜひほうきなどと一緒にできることを考え更に充実、拡大していき地域に開かれた拠点となるように考えていく。 ○緊急一時預かりは、できるだけ園の状況を考慮しながら保護者のニーズに応えられるようにしていく。 ○次年度も家庭教育講座を行い子育てについて保護者に啓蒙をはかっていく。
安 全 管 理 保 健 管 理	<ul style="list-style-type: none"> ○園舎の安全安心確保 ・園舎や遊具の安全点検及び管理 ○職員の安全管理能力の向上 ・危機管理マニュアルの周知徹底と活用 ・防火、防災訓練の実施 ○交通安全指導の推進 ○健康観察、疾病予防、健康診断の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・月に一回、園内点検を行い危険箇所を安全点検簿で市に報告する。 ・4・5歳児の交通安全教室、月に1回の避難訓練実施も行った。 ・健康観察カードによる健康状態の把握、感染症流行期の情報周知、「手洗い、うがいの励行」の指導など徹底した対応を行った。また、ヒヤリハットについては、その都度職員間で話し合い、これからの対策について検討する等しながらか危険防止に努めた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○手洗い、うがい、消毒については、コロナに関係なく、常時子ども達に指導していく。 ○ヒヤリハットについては、その都度職員間で話し合いをしながら安全策を考えながら危機管理能力を向上させていく。 ○感染症については、家庭への注意喚起を行い保護者への情報提供を行いながら今後も引き続き、家庭と連携を図りながら進めていく。
道 徳 ・ 人 権 教 育	<ul style="list-style-type: none"> ○幼児の体験や経験を通して、人権意識や道徳性の芽生えの育成 ・命の大切さにふれる体験の重視 ・思いやりの心を育む環境の工夫 ・豊かな感性、様々な気づきを育む環境の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと創造会議の地域の方の教育力を生かして野菜栽培で整地、苗植えなどでお世話になった。畑での収穫物は給食の献立に取り入れてもらい食することで野菜の生長を観察することや収穫の喜びを経験することができた。 ・虫や園で飼っているウサギに触れる機会が多くウサギの餌当番などを通して生き物に対する命の大切さを感じる環境づくりをしている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の方と共に野菜の栽培や収穫などを通して子ども達と触れ合う機会をつくり、地域の人に親しみをもってかわれるようにしていく。 ○野菜の栽培方法や生き物の飼育方法などの知識を身につけ、ながら豊かな感性を育めるような保育環境の工夫を行う。 ○保育者自身の人権意識の向上に心掛けていく。
特 別 支 援 教 育	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人の特性や発達課題に応じた支援 ○専門医療、教育機関との連携 ○途切れない支援の推進 ・家庭との連携 ・小学校との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援児一人一人の思いを十分に理解し、困り感に寄り添った援助や配慮を行った。また保護者と連絡帳を通して情報共有を行い、家庭と園とが協力しあつて子の育ちを見守っていく体制をとった。また関係機関とも連携をとり合い、個別の支援方法についてアドバイスを受けながら探っていた。 ・小学校と連携、丁寧な引継ぎを行いながら滑らかに移行する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○園が家庭や医療機関などと専門機関との連携に努め、個々の思いに沿ったきめ細かな指導を行っていく。 ○保護者との連携を密にし個々の発達段階や課程を踏まえ、職員全員が共通理解したうえでの一貫した支援ができるように心掛ける。 ○一人一人の子どもの気持ちに寄り添ったサポートを心掛ける。
家 庭 ・ 地 域 ・ 他 校 種 と の 連 携	<ul style="list-style-type: none"> ○信頼される園づくり ・情報の発信、受信 ・園行事への積極的な参加の推進 ○地域の特性に根ざした園づくり ・教育資源の活用(文化・人材・施設・自然) ○小・中の連携 ・互いの学びの場となる計画的な交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの感染状況をみながら行事の参観人数を考え行った。またクラスだよりや園だより、保健だより園長だより等で保育の様子や保健に関する情報を伝えるようにした。 ・日頃の園生活の様子は今年度から学期ごとに年3回YouTube配信を行い保護者に子どもの様子を見ていただいた。 ・小学校との交流も回数的には少ないができた。播磨農業高校の生徒が園にやってくるので子ども達と触れ合う機会が出来た。地域の方にどうぞお誘いいただき体験が出来た。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○次年度でもできる限り子ども達の園での日常生活の様子を公開していきたいので園から保護者向けのYouTube配信を行う。 ○幼小交流については、今年度より少しでも回数を増やせるように計画を小学校と共に立て実施できるようにする。 ○中学校との連携がコロナでできていなかった中で中学生のトライやウィークなども次年度は受け入れをしていきたい。 ○この地域の特色を生かした保育内容を計画し、実施できるように検討していく。

4. 自己評価方法の適切さについての園関係者評価

・子どもたち一人一人が画一的では無く、個々に個性があるから良い。その個性を引き出すことが園であり、大事なこともある。
・決してつづられた言葉ではなく親子が子どもを褒めてやるのが大事である。
・参観等で感動もした先生たちの親が子どもも感じられた。
・園内だけで過ごしていたら様々な刺激や情報も入りにくい、次年度も体験学習を取り入れ様々な活動を子どもたちにさせてほしい。

5. 評価の観点ごとの関係者評価

園自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価
<ul style="list-style-type: none"> ・先生達が年齢にこだわらず情報共有することは大事である。 ・年齢のノウハウも様々、情報共有しながらチームでかかることが大事である。 ・外部講師の先生には引き続き指導を受けながら先生たちの資質を向上させていきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は入れ替え制の参観を観て年齢ごとの成長が感じられた。1歳違っただけでも成長の度合いが違う年齢の幅というものは大きい。5歳児になると自分で判断できる。自分の能力の幅がある。それを先生が優しく、時には厳しく指導していくことが大切。 ・次年度も賀茂の特色は異年齢交流にあると思うので続けていってほしい。みんなで子どもを育ててくれている良さがある。
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育講座は次年度も継続していただきたい。 ・今年度は最初は異動で、かわってこられた先生方も何人かいて関係性がなかなか取れなかったが今は園全体で子どもたちに声をかけてくださっているのが嬉しい。 ・園庭開放もイベントをしようとする予算取り等も検討しなくてはならない、大変だろうが市にも協力してもらいながら進めていってほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・まだコロナ感染症が完全に収束したわけではないが、5月から5類に引き下げられ少しずつ緩和の方向になっていくだろうが、他の感染症に対しても手洗いうがい消毒は励行してほしい。 ・ヒヤリハットについては先生方は子どもたちから目が離せない状況で大変な思いをされている。年齢が低いほど注意することが多いこともよく分かった。
<ul style="list-style-type: none"> ・野菜の世話をしたり花壇に花を植えるということも生き物を育てる活動で命の大切さに触れる体験である。 ・生き物を飼育したりすることで思いやりの心が育まれる為、そういう環境の中で道徳性や人権教育も行われていく。
<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子どもに寄り添った支援を引き続きしていただきたい。 ・これからも専門機関との連携を密にとりながら、その子にとっていい方法を見つけていっていただきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も園外学習は是非取り入れてほしい。バスに乗って出かけるとかでなくてもいい、近郊を散歩して田植えの様子、苗の育っている様子、稲穂の実った様子を見に行く、コウノトリが来たなら見に行ったり気球が上がっている様子を見るだけでもいい、先生方の負担がかからない程度でいいので園外での体験活動をさせていきたい。 ・コロナ前のように子どもたちが園で給食を食べている様子、どんな風にして食べているのかを見る機会があれば嬉しい。